科目ナンバリング	U-LAS70 10001 SJ50						
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー：人新世の「人間の条件」を考える ILAS Seminar :Thinking“ the human condition ”in the Anthropocene			担当者所属 職名・氏名	総合生存学館 特定准教授 篠原　雅武		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール（対面授業科目）
開講年度・ 開講期	2024・前期	受講定員 (1回生定員)	15 (10) 人	配当学年	主として1回生	対象学生	全学向
曜時限	火5	教室	共西21			使用言語	日本語及び英語
キーワード	人新世 / 生存可能性 / チャクラバルティ / 人間の条件						

[授業の概要・目的]

2023年の夏はとても暑かった。エアコンなしで過ごすことははたしてできただろうか。また、2020年のコロナウイルスパンデミックにおいては、ステイホームを強いられたのだが、そこでWi-Fiなしで過ごすことははたしてできただろうか。この状況において、人間の生活を条件づけるものとしての環境を、いかなるものと考えたらいいのか。人間の生活が営まれているところとしての環境については、「自然」環境というだけでなく、人工的に構築された状態にある「人工」環境と考えたほうがいいのではないか。だが他方で、人工的な改変が地球のありかたに影響を及ぼし、それが今度は人間の生活の条件そのものを不安定にするという議論がある。私たちはもはや、自然との安定的な関係のなかにあるのではなく、人間のコントロールを超えた、定まることのない惑星的な条件において存在することになっている、という議論である。そのような世界像を提唱した人文系学者の一人が、ディペッシュ・チャクラバルティである。2009年の「歴史の気候」の発表以降、彼はいくつもの論考を発表し、2021年には『惑星時代における歴史の気候』という著作を刊行する。そこで彼は、「人間と自然の境界区分は成り立たない」「人間は、他の諸々の生命体との関わりの中で、惑星において生息する」「気候変動において問われているのは、生存可能性（habitability）の問題である」といった主張を行うのだが、この主張は、2020年代以降の人文社会科学のあり方を定めたものとして、後々評価されることになるだろう。このセミナーでは、チャクラバルティの論文を読み解き、人新世における生存可能性をめぐって考えてみたい。

[到達目標]

文献の読解を通じて精読し考えるための基本的な方法を学ぶとともに、現在において人間が生きている世界に関して、哲学的・人文学的な観点から新たな知
見を獲得することを目指す。

[授業計画と内容]

第1回

ガイダンス 授業の概要、進め方について説明する。

第2回~第4回

人新世の人文学について、基本文献を読解し、概要を理解する。

第5回~第14回

チャクラバルティの論考の代表的なものをを読み進める。「気候と資本」（日本語訳あり）、「惑星」（日本語訳なし）などから可能なかぎり読む。

ILASセミナー：人新世の「人間の条件」を考える(2)へ続く↓↓↓

ILASセミナー ：人新世の「人間の条件」を考える(2)

第15回ふりかえり

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

出席と参加の状況を踏まえた平常点（40点）と学期末レポート（60点）の内容を合わせて総合的に評価する。

[教科書]

使用する文献は、ウェブでダウンロード可能なものを中心とする。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

参加者は、授業中に配布した文献を読んでおくこと。授業でわからないことがでてきたらそれが何かを自分で整理し、それをもとにして次の授業で質問すること。

[その他（オフィスアワー等）]